

ハイ・ゲンキ最前線

様々な治療に食事改善を取り入れている医師を訪問

no.17

食事改善の大切さと玄米発酵食品の良さを体感し、患者さんにお奨めしている医師を訪問し、お話を伺うコーナー「ハイ・ゲンキ最前線」。今号は東京都国立市のさくら通りクリニック・春日井啓悦（かすがいひろよし）院長です。

JR中央線「立川」駅で南武線に乗り換えて2つ目の「矢川」駅から大通りを約5分歩くとさくら通りクリニックに到着する。取材に伺った時期、木々はその葉を落とし、たまたまだったが、この号が読者の手許に届く頃にはきつと満開の花が咲き誇っているに違いない。国立市のホームページに

よればこの桜並木の総延長は約1.7キロ。長い桜のトンネルとなつて訪れる花見客を温かく迎えていることだろう。そんな桜並木に沿って建つ明るい雰囲気のクリニックで春日井先生は内科、循環器科、小児科の看板を掲げ、今日も人なつこい笑顔で患者さんと話し込んでいる。

**私がお届けしたいのはかかりつけ医としての
安心です。不調を感じたら、心配があったら、
あのクリニックがあったと
思い起こしてもらえ存在でありたい。**

さくら通りクリニック

春日井啓悦先生

春日井先生は大学卒業後、大病院勤務を経て米国のスウエスタン大学へ留学し、約3年間、不整脈治療の研究などに従事してきた。最先端の研究に携わり、帰国後は大規模病院の循環器科、内科で診察に当たってきたのだが、先生の胸には徐々にある不満が募ってきた。それは「患者さんからどんどん離れていく。大病院では患者さんの人生の一部を切り取るだけだ。ぼくは患者さんにとずつとお付き合いする臨床医でありたい」というものだった。その願いを春日井先生は2008年に実現させた。個人クリニックの開設である。



さくら通りクリニック春日井先生

「特に、高血圧、狭心症、心不全、不整脈などの循環器系疾患や糖尿病、痛風、メタボリックシンドローム、慢性肝炎などの生活習慣に関わる病気の予防に力を注いでいますが、この分野でなくとも『健康診断で数値が引っかかったから』『ちょっと具合が悪いから』ということがあるら何でも相談していただきたいですね。症状を

じっくりお聞きした上で、いろんな診療方法を丁寧に説明します」と春日井先生はかかりつけ医（ホームドクター）として老若男女を問わず、家族全員の健康管理を行いたい構えだ。そして症状によって振り分けていくゲートキーパーとしての役割を目指している。キレーションと呼ばれる治療法も選択肢のひとつとして提案する。「キレーションとは年齢と共に硬くなつていく血管を人工のアミノ酸点滴などで少しずつ柔らかくしていく『血管のアンチエイジング治療』です。現段階では厚生労働省の認可が得られていませんので残念ながら費用が高額になります」

しかし、春日井先生がこだわるのは『食事と運動』だ。どんな食事か？どんな生活ぶりか？それらを尋ねながら治療方法を探り食事や運動を指導する。基本である玄米菜食が実践できない患者さんには自らも愛食する玄米発酵食品を紹介する。時には症状に応じたサプリメントを提案しそれだけで終わることもある。「食事で改善したからもうクリニックへ来ない、それでいいじゃないですか！体調が良くなれば他人に優しくなれます。そんな人が増えれば世の中は平和になります。それが目指す最終地点です」

——あの先生にかかっているから安心だ——そう思っていただけのように今日もまた春日井先生は地域の方々と真正面から向き合っている。

※ホームページは「さくら通りクリニック」で検索してください。